



卓上四季

「しんしんと肺碧きまで海の旅」
 (篠原鳳作)。30歳で夭折した新
 興俳句の俊英が、沖縄県宮古島で
 中学教師を務めていた頃に詠んだ
 代表作だ▼コバルトブルーに輝く
 南の大平原に行く。無季の句だが、やはり
 夏がふさわしい。船上で胸いっぱいに息を
 吸い込めば、肺にまで海の青さが染みわた
 るようだ。鮮やかな描写である▼こちらの
 方は、全身を青く染め、海に溶け込むよう
 な長旅と言えよう。日本の河川から、南へ
 約2千キロの太平洋。ニホンウナギは、はる
 かな産卵場所を目指す。大海の点にすぎな
 い目的地に、どうやってたどり着くのか。
 なぜ、オスとメスは巡り合うことができる
 のか。その回遊には依然、謎が多い▼卵が
 かえると旅は再開され、幼生が潮に乗り、
 やがて稚魚のシラスウナギとなつて日本沿
 岸に帰ってくる。気の遠くなるような一連
 の行程を振り返れば、奇跡の連続と言つ
 いい「海の旅」ではないか▼帰還するシラ
 スウナギが激減して久しい。養殖と云つて
 も、シラスウナギを捕まえて池で大きくな
 るだけだ。既に絶滅危惧種である。今年の
 渔獲量は3・6トンで6年ぶりに過去最低を
 更新した▼乱獲に加え、河川開発、地球温
 暖化による海洋環境の変化など、要因は複
 合的だらう。禁漁も検討する時かもしれな
 い。もはや土用の丑の日に、かば焼きが品
 薄になるという程度の問題ではあるまい。
 ② 線②の「絶滅すれば食文化も消える」とはどういうことか説明しましょう。

2019.6.9

2019年6月9日朝刊1面

① ニホンウナギの稚魚の名前は何といいますか。

② ぼう線①に「長旅」とありますが、筆者はこれをどのような旅だと表現していますか。書き抜きましょう。

③ ぼう線②の「絶滅すれば食文化も消える」とはどういうことか説明しましょう。